

平成三十一年度 専修大学附属高等学校入学試験問題

国 語

注意

- 一、試験時間は五十分です。
- 二、問題は一ページから十五ページまでです。
- 三、答えはすべて解答用紙の指定の欄に記入しなさい。
- 四、答えを書きなおすときは、きれいに消してから新しい答えを書きなさい。
- 五、問題用紙も、試験終了後回収します。

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(解答は全て句読点、記号も一字に含める。)

教養とはなんだろうか、インテリジェンスとはなんだろうか、まずはそのところから考え始めることにしましょう。そもそも、「もの知り」^①であることは、インテリジェンスの必要条件ではありませんが、十分条件ではない、ここを押さえておかないといけません。何も知らないで物事を考えることはできませんから、たとえば歴史や言語、また、日本人としての最低限の常識などはもっていて然るべきでしょう。そうした知識を、本を読むことで得られるのは事実です。したがって、多くの本を読んでいる人は、もの知りであるとは言える。しかし、ただ知っているだけ、つまり知識がただその人の脳細胞に記憶されているだけで、その精神になんの影響も与えていなければ、それは生きた知識ではありません。言い換えれば知恵になっていないのです。

あれも読んだ、これも読んだと多くの本を読んだことを喧伝^{*1けんてん}する人がいますね。「月に五〇冊は読みます」とかジマ^aンする人、「二日に二冊ずつ読んでいる」などと豪語する人、もしかするとあなたの周囲にもいるかもしれません。

でも正直に言うと、そういう人に限って、あまり深みのない人物であったりします。むやみに読んだ本の量をジマ^aンする、そういう読書は、インテリジェンスを涵養^{*2かんよう}するのではなく、ペダントリー (pedantry：学問や知識をひけらかすこと、銜学癖^{げんがくへき}) への道^bを突っ走っているように思えます。「オレはもの知りだろう」と片々たる知識をひけらかすオジサンなどは、傍^{はた}から見たら^②あられもなく感じられ、ケイエン^bしたくなりますね。

そうならないために、同じ読むなら、それがペダントリーではなくインテリジェンスへの道を行くようにしたいと、私は思うのです。

では、そうするにはどうしたらよいのか。

まず大切なのは、「読んだ本の内容について考える」^③ことです。読書がその人の^③叡智^{えいち}の形成に作用を及ぼすとしたら、

それはたくさん読んだからではなく、本にまつわる「考える営為」のゆえである。I 大切なのは、考え考え読ん
でいくことなのです。

この考える営為は、読んでいる最中のみならず、読む前にも必要です。自分はいま何が読みたいのか、自分にとって
いま何が必要なのか、ということをよくよく考えてから読み始めることが大切なのです。④ 内的な契機のない読書に意味
はないと私は考えています。

量をホコる「読書家」のなかには「キミは、こんな本も読んでいないのかね」などと、⑤ 相手を威嚇する人がいます。

江戸時代中期の儒者三浦梅園は「学文は置き所によりて善悪わかる。臍の下よし、鼻の先悪し」と、なかなか洒落た
教訓を残しています。同じ学ぶなら、その学んだ事、読んだ事を、ぐっと臍の下に置いておきたいものです。しかし、
鼻の先に「知識」をぶら下げた人物から、そんなふうに言われたほうはコンプレックスを感じ、読まねばならぬような
キョウハク観念に襲われることがあるかもしれません。けれど、興味のない本を読んだところで、まあ、なにもなりま
せん。その読書に費やした努力と時間は、結局無駄になります。

興味を持って読み始めた本でも、実際にはあまり意味がなかった、そういう無駄読みということも少なくありません。
しかし、人生の時間は有限ですから、できるだけ無駄は減らしたいものです。

そうすると、いま読むべき本はなんなのか、いま自分にとって必要な知識はなんだろうか、ということの日頃から思
いめぐらしていて、それにしがつて読む本を選ぶというプロセスが、読書の前提条件として大切です。それなくして、
ただ学校の課題図書だからとか、物知りオジサンから「読んでいて当然だ」と言われたとか、そういう外から与えられ
た情報のみで本を選ぶと、結局は自分の血肉にはならず、むしろペダントリーへの道を行くことになりがちです。

同じ時間を費やし、同じ努力をするなら、他人はどうあれ、自分に、「心の栄養」となるような本を読んで、豊
かなインテリジェンスへの道を行きたいものです。

そこでまずは、自分が何に対してもっとも興味を感じるか、と考えるところから始めましょう。

歴史の本であれ昆虫の研究書であれ、自分の興味のある分野の本をまず一冊手に取ってみる。その本から一つでも新しいことを知ったり、面白いなあと感動したら、その本のなかで紹介されていたり引用されていたりする別の本を読みたいという欲求が出てくるでしょう。あるいは、一つの事象について、ちよつと別の側面から眺めてみたいという思いが、新しい分野の読書へと導いてくれるかもしれない。良い読書とはこのように、内的な契機から発展して、生きた知識が上積みされて好循環をなしていくものなのです。

内的な契機のない読書には意味がないと考える私にとって、マスコミ、とくにテレビなどが喧伝するベストセラーなどというものは、じつにうすっぺらな現象に見えます。

現代のベストセラーは、テレビや雑誌などのメディア・ジャーナリズムによって「作られる」側面が多分にあります。芥川賞だの、直木賞だの、あるいは本屋大賞だのと陸統りくどうとして「作りだされる」ベストセラーの数々、あるいは影響力のあるタレントがテレビで薦める「この一冊」というもの。こんなことによつて、翌日から本屋で突然売れ出すということが、実際に起こり得るわけです。

これに対して明治時代くらいまでは、面白かったという感想がじわじわと口コミのような形で広がつて、たとえば『吾輩は猫である』などが、ベストセラーになつていった。テレビのようなマスメディアが存在しなかったから当然なのですが、今と昔とでは、ベストセラーの生まれるプロセスがまったく違つていました。

要するに現在は、メディアにのせられて、読む必然性のない人たちがまでが読むことによつて、ある種の本がベストセラーになつている。ひと言でいえば、こうした現代の「作られたベストセラー」^⑦を読む必要はないと私は考えます。

いや、その本が、内的にどうしても読みたい内容だと思つたら、ぜひ読んだらいい。しかし、ただテレビで言っていたから、みんなが読んでいるから、本屋に山積みになつているから、などの理由で本を買うというのは、まあよしたほ

うがいいと思います。

昨今、大ベストセラーになっている本を、たとえば五〇年後に、覚えている人はどれだけいるでしょうか。きっと図書館には残っているでしょう。けれど、長い年月読み継がれる本は、現実には多くないのです。

もちろん最近のベストセラーのなかにも素晴らしい作品はあるのかもしれませんが、「長い年月の批判」に耐えて「古典」となるような本は決して多くはないのです。いわゆるベストセラーが、一種の流行現象である以上、時間によって淘汰されていくのは避けられない運命だからです。

流行現象を牽引する洒落たターム (term: 術語) というものが、昔からありました。

私の学生時代には「実存主義」が大流行して、フランスの哲学者、ジャン・ポール・サルトルなどがもてはやされていました。けれども今サルトルを読む人など、どのくらいいるでしょうか。その頃の流行のサイセンタンを行っていた日本の実存主義作家は安部公房あべこうぼうでしたが、高校生だった私は、『Ⅱ』の女』『他人の顔』なんて作品を読んで、なにかこう精神の栄養を得たような、少し大人になったような喜びを感じたものです。では、いまの私に、その読書がなにか影響を与えているか、と自問すると、正直に言えば、なにも残っていません。たぶんそれは、流行を追いかけて読むではみたけれど、私の心には読む必然が用意されていなかったことを意味するのだと思っています。

林望『役に立たない読書』(集英社)

(注) *1 喧伝……世間にやかましく言い伝えること。

*2 涵養……徐々に養成すること。

*3 学文……学問と同義。

*4 淘汰……生存競争の結果、環境に適応しないものが滅び、適応するものだけが残ること。

*5 牽引……ものを引っ張ること。

問一 傍線部 a、e のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線部①『もの知り』とはどのような状態か。次の文の空欄に当てはまるように、本文中から二十文字以上二十五字以内で抜き出して、初めと終わりの三字を答えなさい。

筆者の言う「もの知り」とは、()

() の状態である。

問三 傍線部②「あられもなく」の意味として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア とんでもない イ 仰仰しい ウ 無愛想である エ 落ち着きがない

問四 傍線部③「叡知」と同じ意味として用いられている語を、ここより後の本文中から探し、二字で抜き出して答えなさい。

問五 空欄 I に入る接続詞として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア では イ だから ウ しかし エ さらに オ なぜなら

問六 傍線部④「内的な契機」について、次の各問いに答えなさい。

- (1) 「内的な契機」と対立する表現を本文中から十字で抜き出して答えなさい。
- (2) 読書における「内的な契機」とは何か。本文中から四字で抜き出して答えなさい。

問七 傍線部⑤「相手を威嚇する人がいます。」とあるが、筆者は「相手を威嚇する人」をどのような人物だと考えているか。

その説明として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 読書量に応じて教養が得られると考え、相手の教養のなさを攻撃している人物。
- イ 本を読まない人に、読書を通じた教養の大切さを切実に訴えている人物。
- ウ 読書量の少ない人に比べ、自分の方が読書の本質を理解していると主張する人物。
- エ 読んだ本の内容について、相手が理解しているかどうかを測ろうとする人物。
- オ 自分自身の教養のなさを自覚し、読書の質の重要性を悟られまいとする人物。

問八 傍線部⑥ 「学文は置き所によりて善悪わかる。臍の下よし、鼻の先悪し」について、次の各問いに答えなさい。

(1) 「学文は置き所によりて善悪わかる。臍の下よし、鼻の先悪し」とは、どういうことか。その説明として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 学問とはペダントリーを排除するもので、それはインテリジェンスへ進む過程となる。
- イ 学問とは本来インテリジェンスを競うもので、ペダントリーを競い合うものではない。
- ウ 学問とはペダントリーに固執せず、インテリジェンスを磨くために必要なものである。
- エ 学問とはインテリジェンスを養うものであり、ペダントリーとして用いてはならない。
- オ 学問とはペダントリーの段階に留まらず、インテリジェンスに進むための道具である。

(2) 次に挙げる慣用表現の中から、空欄に「臍」が入るものを選んで、記号で答えなさい。

- ア 正直の [] に神宿る イ [] で茶を沸かす ウ 揚げ [] を取る
- エ 生き馬の [] を抜く オ 木で [] を括る カ 壁に [] あり

問九 傍線部⑦ 「現代の『作られたベストセラー』は誰によって作られたものか。本文中から六字で抜き出して答えなさい。

問十 空欄 [II] に入る一字を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 氷 イ 箱 ウ 砂 エ 愛 オ 鉄

問十一 本文の内容に合致するものとして、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア ベストセラーは一時の流行に過ぎないが、後に古典と呼ばれる作品もそこから生まれる。
- イ 古典となる作品は、一時の流行現象に過ぎないベストセラー作品の中からは生まれない。
- ウ 読者の感想や批評が時間をかけて拡がり、結果的にベストセラーとなる作品も存在する。
- エ 長い年月の批判に耐えた古典だったとしても、現在はベストセラーになるか不明である。
- オ 現在、ベストセラーとして読まれていない作品こそが、後の時代に古典作品となり得る。

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(解答は全て句読点、記号も一字に含める。)

親指の爪ほどの蟹の子を連れて、中年の夫婦が見舞いに来てくれた。わたくしは十数年来、パーキンソン病^aを患^aっていて、近頃、日に一、二回は息が詰まる発作に襲われる。一人が来てくれたときは、幸いに発作が起こつていなかった。夫婦は青いポリバケツを重そうに抱えていた。

以前この夫婦から、アコウの木の写真をいた^①だいたことがある。二人は水俣^{*2}の明神という海辺に住んでいて、わたくしがアコウの木にただならぬ親愛を抱いていることを知っているときみえて、画用紙大に引き伸ばして額に入れたアコウの写真を、くださったことがある。毎日眺めて、なんと慰められていることだろう。

いかにも嬉しそうに差し出されたポリバケツの中をのぞくと、三分の一ほど水がはいり、その中に石がひとつ転がっていた。人間の頭ほどはありそうで、海辺の石であることは、苔^{こけ}のつき具合でわかった。

二人はもどかしそうにポリバケツの中を指さしながら、かわるがわる声をかけた。

「ほら、やっと着いたぞ。出て来て道子さんに挨拶せんか」

夫の方がそう言つて、石の脇腹をくすぐるようにすると、石の下から小さな蟹の子が、ちよろちよろと出て来た。ちつちやな^{はさま}缺もちゃんといつていて、大人が三人で覗^{のぞ}きこんでいるのに脅^{おび}えて、二本の缺を振り立てながら逃げ廻る様子が、いかにもいじらしく愛らしかった。

蟹の子はよつぽどおどろいたらしく、奥さんの腕を伝つてたちまち肩に上ったところを、わたくしがつかまえた。蟹の子はわたくしの掌^{てのひら}の中でもぞもぞ動いていたが、両手の親指の合わせ目からバケツの中に落つこちてしまった。わたくしはその潮水に手を突っこんで、掌の中で蟹の子を遊ばせるのに夢中になった。なんとかつかまえたかった。

付き添つてくれているヘルパーさんが、「笑つてはしゃいでいる道子さんを、久しぶりに見ました。蟹より道子さん

のよるこびようのほうがおもしろい」とすつとんきような声でいわれた。

「このあいだ持って来たアコウの木の写真があるでしょう。あの木の根元に棲すんどつとですもんね。つかまえるのに大お事ごとしました。水道の水じゃ死ぬかも知れんと思うて、アコウの木の下の潮水ば汲くんで入れて来ました。いろいろ棲すんどるですもんね」

バケツの中を逃げ廻っている蟹の子を眺めながら、ご主人の方がそう言った。

わたくしはただちに、夫婦の住む明神のミサキの岩場bを思い出した。アコウの木bの根元の岩場には、蟹が棲すむばかりではなく、アワビや嫁が笠などの一枚貝や、岩にくつついて容易に離れないムラサキ貝や鬼の爪、岩から岩へと自由に移動する尻高や岩貝などの巻貝の集落があるにちがいない。ウニも無数のとげを静かに動かして移動しているだろう。

バケツの中の蟹の子は、^④そういう生活環境から不意につかみ出されて、どういう気持ちでここまで運ばれて来たのだろうか。いまはわたしのはしやぎように、引きこまれてしまったらしい。海辺とはまったく違う環境に突然連れて来られ、人肌というものに包まれて、どんなに逆上していたことだろう。可哀そうに。

写真のアコウの木は相当な老木で、年月を経た一軒の家ほどの **I** ^①がある。枝の先から波の上に気根*₃を垂らして、潮を吸いながら生きている樹である。まわりには、おなじ潮水を吸っている葦*₄や葭よしがぎっしり生えている。そこに棲すむ蟹の子を、潮水と海の石ながら、わざわざ持つて来て見せてくださるとは、何となつかしい心遣いだろう。

奥さんのご家族は水俣病患者である。旦那さんの方は患者たちの支援者として水俣に住みつかれた。奥さんの父上はチツソ*₅の工員だった。父上が発病なさったころの話になると、必ず涙ぐまれる。父上は発病後五十年を超えて、やっと患者としてシンセイcすることに踏み切られたが、間もなく亡くなられた。

不知火海しらぬいの海岸にはアコウの木が多いが、いまや老木となって枯れつつあるそうだ。不知火海という内海自体がアコウを育てられぬほど **II** ^② いるのかもしれない。

幼いころわたくしは海辺や小川で、蟹たちと遊んだことがあった。オハジキにしてもいいくらいの、小さな蟹たちであつた。歳とつて病人になつて、久しく海から離れていたのに、思いがけなく目の前に出現した海の香りに包まれ、掌の中で蟹と追っかけごっこをして、息を弾^dませている自分を自覚したとき、蟹の子の恐怖もまた思わぬわけにはいかなかった。

わたくしのいまだに抱え続けているテーマに、^⑥生命の孤独というものがある。赤児というものは、どうやっても泣き止まぬことがある。泣きやまぬ赤児の孤独と、泣き止めさせられぬ母親とが、わたくしの^eセンザイ的なテーマといつてよい。人間だけではなく、動物たちにもそういう悲哀があるのではなからうか。わたくしはかつて『詩経』と題する、お経まがいの詩を作つたことがある。この世の果ての海を、蓮^{はす}の葉に乗つて漂うひとりの赤児の気持ちをうたつたつもりだ。中にはこういう詩句がある。

無明闇中

むーみようあんちゆう

遠 III

一輪 おんりーいちりん

流々草花

るーるーそーげ

夫婦は家に帰つてから、あの小さな蟹の子をどうしただろう。もと棲んでいた海辺へ戻してやつたろうか。あわてて潮の中に逃げ戻つてゆく小さな蟹の子の姿が、いつまでもわたくしの目裏^{まなぐら}に残つた。

石牟礼道子『魂の秘境から』(朝日新聞出版)

(注) *1 パーキンソン病……神経系の病気で、体の動きに障害が現れて徐々に進行する。

*2 水俣……熊本県水俣市。不知火海に面している。工業都市として発展し、水俣病が発生した。

*3 気根……植物の根。地中ではなく茎や幹から空中に出る根。

*4 葦や葎……イネ科の多年草。温帯および暖帯に広く分布し、水辺に自生する。

*5 チツツ……水俣病の原因企業として責任を問われた企業名。

問一 傍線部 a、e のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みを平仮名で答えなさい。

問二 傍線部①「いただいた」とあるが、「いただく」と同じ種類の敬語として、最も適当なものを次の中から選び、

記号で答えなさい。

- ア おっしゃる イ くださる ウ いらっしゃる エ 申しあげる

問三 傍線部②「もどかしそうにポリバケツの中を指さしながら、かわるがわる声をかけた。」から読み取れる心情として、

最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 蟹の子が言うことを聞かないいらだたしさ

イ 蟹の子をすぐに見せられないやるせなさ

ウ 蟹の子がなかなか出て来ない虚しさ^{むな}

エ 蟹の子が思うように出て来ない歯がゆさ

オ 蟹の子の姿が見えてこない悲しさ

問四 傍線部③「すつとんきょうな」の説明として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア ひどく困惑した様子
- イ ひどくまのぬけた様子
- ウ ひどく感心した様子
- エ ひどく楽しげな様子
- オ ひどく喜んでいる様子

問五 傍線部④「そういう生活環境から不意につかみ出されて、どういう気持ちでここまで運ばれて来たのだろうか。」という蟹の子に対する疑問から、「わたくし」はどのような自覚を得たか。解答欄に合う形で十五字以内で答えなさい。

()
() 自分

問六 空欄 I に入る語句として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 悲壮感
- イ 躍動感
- ウ 虚無感
- エ 存在感
- オ 不安感

問七 傍線部⑤「そこに棲む蟹の子を、潮水と海の石ながら、わざわざ持って来て見せてくださる」について、次の各問いに答えなさい。

(1) 「中年の夫婦」が、「そこに棲む蟹の子を、潮水と海の石ながら」持って来て見せたのはどうしてか。次の文の空欄に当てはまるように、本文中から三十字以内で抜き出して、初めと終わりの五字を答えなさい。

「中年の夫婦」は、筆者が（

）から。

(2) 「中年の夫婦」がこの行動で期待したことは何か。本文中から九字で抜き出して答えなさい。

問八 空欄Ⅱに入る語句として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 涸^かれて イ 腐^くって ウ 病^やんで エ 冷^{ひや}めて オ 憂^{うれ}いて

問九 本文中、「わたくし」が蟹の子と重ねていたものは何か。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 母親 イ 仏 ウ 蓮の葉 エ 生命 オ 赤児

問十 「わたくし」の言う、傍線部⑥「生命の孤独」に含まれるものとして、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 赤児は泣き続けることで自分の存在を知らせる。
- イ 赤児は成長するにつれて自立して生きていく。
- ウ 子供は親に逆らいながら成長していくものである。
- エ 赤児は母親に抱かれないと安心できない。
- オ 母親と赤児は親子であっても別々の人間である。

問十一 空欄 Ⅲに入る最も適当な語を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 理 イ 裏 ウ 利 エ 離 オ 履

問十二 本文中の「わたくし」の心情として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア かつて蟹と遊んだ海辺の風景が、様変わりしてしまったことに悔しさを感じている。
- イ 蟹の子とたわむれてはしゃいだものの、疲れとともに海へ帰したくなっている。
- ウ 不知火海から来た蟹の子を愛らしく思う一方で、その心中を思っ胸を痛めている。
- エ 水俣病によって失われた多くの生命を思っ、蟹の子には生きてほしいと願っている。
- オ 写真のアコウの木は蟹の子にとっては母なので、引き離してしまったことを後悔している。

国語解答用紙

受験番号
氏名

 	得点
--------------	----

一、問一

a
b
c
d
e

初め

終わり

問三

問四

問五

問六

(1)

(2)

問七

問八

(1)

(2)

問九

問十

問十一

二、問一

a
b
c
d
e

問二

問三

問四

問五

10

自分

問六

問七

(1) 初め
終わり

(2)

問八

問九

問十

問十一

問十二
